

ユウタとコハル

画：ゴハチ



暮らしの中の千夜一話

しんしんと雪の降る日は世界が静かになる。耳をすますと、遠くで誰かが呼吸しているような音をする。私はそれを「雪の音」と呼んでいる。夫を見送って三度目の冬。朝、湯気の向こうに夫の笑顔を探す癖はまだ抜けない。気づけば湯のみをふたつ出してしまう。そのひとつをそっと戻すとき、指先がほんのわずかに止まる。その瞬間、夫と過ごした朝の光景が湯気のように胸に立ちのぼる。けれど次の呼吸で、それは静かに溶けていく。今はもう、なにかにつけて泣くことはない。悲しみに暮れるより、暮らしの穏やかさを味わえるようになった。ただ「そういう朝」は続いている。たぶんこれから。ストーブの前で膝を抱えて窓の外を眺める。真っ白な庭に、夫の好きだった柿の木が立っている。枝先には最後の実がひとつ。もう凍っているだろうに、そんなことお構いなしという風情でぶら下がっている柿に向かって独りごちた。「まったくしぶといねえ、あんたにそっくり」。声に出して笑うと、胸の奥がじんときんじけなくなった。柿の木に降り積もった雪にやわらかな朝陽が降り注ぐ。積もっては溶け、溶けてはまた積もる。悲しみも喜びも雪と同じ。人生はきっと、そんなふうが続いていくのだろう。湯のみの中のお茶は少し冷めていた。けれどその温さがやさしくて、私はそっと両手で湯のみを包み込む。温かい。ストーブの灯油のにおい。ヤカンの鳴る音。しんしんと降る雪の白さ。夫がいない今も生活は確かに続いている。大切な人を亡くしても、私はこうして生きている。「ねえ、あなた。あの柿、今夜あたり落ちるかもね」。誰もいない部屋に、ゆっくりと言葉が溶けていく。また「雪の音」が聞こえ始めた。



今月のトピック：【北向き住宅】

北向き住宅への関心が高まっています。夏は強い日差しに日中カーテンを開けられず、熱帯夜で暑さがこもる南向きの部屋に対し、北向きなら比較的過ごしやすく、電気代も節約できます。冬の暗さや寒さは断熱性の向上やインテリアの工夫で回避が可能。「日当たり良好、南向き」を好条件とする不動産業界の常識を、酷暑の夏が覆しています。



— 弊社のモットー —

私共はあなた様の想いに誠心誠意、奉仕致します。つまり、愚直に、真面目に、地道に、誠実に、謙虚に、スピード感を持ってことにあたります。

株式会社 エルフォルク

〒733-0002

広島市西区楠木町 3 丁目 10-22

TEL : 082-230-8870 FAX : 082-230-8871

<https://www.tent-erfolg.co.jp>